

「こおりやまの米」通信

編集：郡山市
 JA福島さくら郡山地区本部（TEL. 921-0533）
 NOSAI福島郡山田村支所（TEL. 933-3307）
 県中農林事務所農業振興普及部（TEL. 935-1310）
 発行：郡山市農作物生産対策協議会（郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761）



郡山市
 イメージキャラクター
 「かくとくん」

Vol. 9

最終号（生育調査ほ結果）

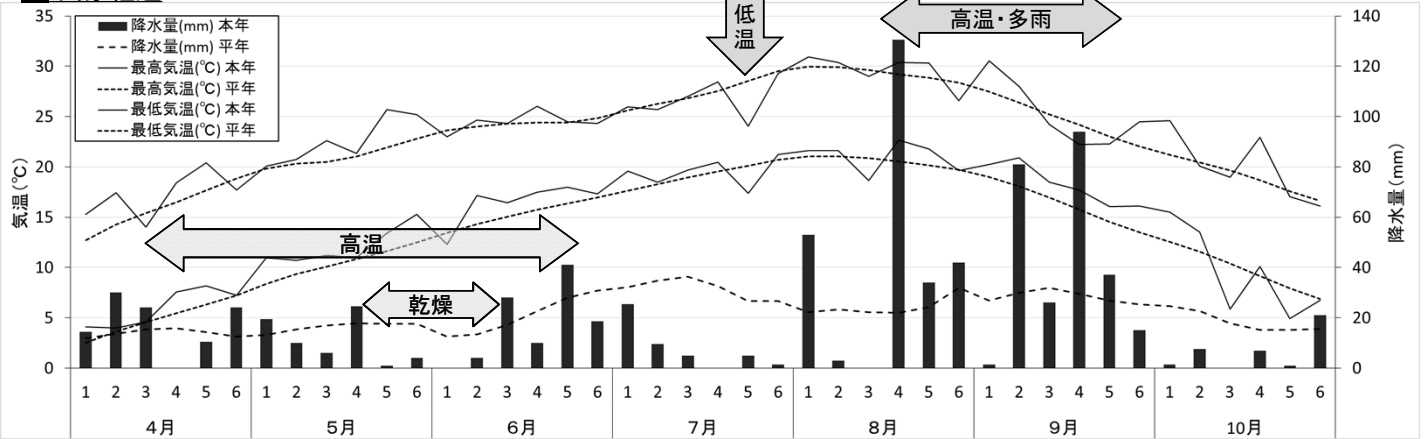
* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

こおりやまの米通信

検索

昨年の稲作りを振り返り今年の作付に備えましょう！

1 気象経過



【本年度の水稲生育期間中の特徴】

- ・育苗期間～最高分げつ期(4月中旬～6月下旬)までの高温
- ・減数分裂期前後(7月5半旬)の低温
- ・登熟期間(8月中旬～)の高温と降雨



2 生育概況

(1) 生育初期～分げつ期

郡山市の播種盛期は、4月16日で平年並みとなりました。播種直後より気温の高い日が続きましたが、ハウス内の温度管理、及び種子消毒が徹底されたため育苗期間の病害の発生は昨年に比べ少なくなりました。

田植盛期は5月16日で平年並みとなりました。活着は概ね良好でした。分げつ期の生育は、平坦部では草丈は平年並みでしたが、茎数が少なく葉齢の進展がやや緩慢となりました。湖南地区では、平年に比べ草丈がやや長く、茎数は平年並み、葉齢はやや進展しました。

(2) 幼穂形成期～出穂期

7月1日の生育は、平年と比べ草丈がやや短く、茎数はやや少なく経過しました。また移植後高温で経過したため、幼穂形成期はそれぞれ平年より「コシヒカリ」で3日、「ひとめぼれ」で5日、「あきたこまち」で6日早くなりました。

出穂盛期は8月10日で、平年より1日早くなりました。品種別では、「コシヒカリ」が8月13日で平年より2日遅く、「ひとめぼれ」が8月5日で平年並み、「天のつぶ」が8月8日で平年より1日遅く、湖南地区の「あきたこまち」で1日早くなりました。

(3) 登熟期～刈取期

出穂以降、気温は平年より高く推移し、成熟期は平年より早くなりましたが、9月中旬以降断続的に降雨があったため、刈取盛期は平年より4日遅い10月15日となりました。

今年度の病害の発生は昨年に比べ軽微でした。来年度も防除を確実に行うようにしましょう。

作業時期 及び 生育ステージ	播種 盛期 (月/日)	田植 盛期 (月/日)	幼穂形成期(月/日)				出穂 盛期 (月/日)	出穂期(月/日)				刈取 盛期 (月/日)
			あきた こまち (湖南)	ひとめ ぼれ	天の つぶ	コシヒ カリ		あきた こまち (湖南)	ひとめ ぼれ	天の つぶ	コシヒ カリ	
本年値	4/16	5/16	7/8	7/8	7/8	7/15	8/10	8/5	8/5	8/8	8/13	10/15
平年値	4/17	5/16	7/14	7/13	(7/10)*	7/18	8/11	8/6	8/5	(8/7)*	8/11	10/11

※盛期は全体の5割が達した日

※「天のつぶ」の幼穂形成期、出穂期平年値は準平年値。

3 作柄及び品質

(1) 作柄：東北農政局が公表した今年度の郡山市の10a当たり収量は、全もみ数が「平年並み」となり、出穂期以降、おおむね気温・日照時間が平年を上回って経過し、また9月中旬以降も気温が平年を上回ったため、「登熟」が「やや良」で547kgとなりましたが、昨年度と比較すると4kg減少しました。

(2) 品質：JA福島さくらの検査結果では、12月当初現在の水稻1等米比率は、92.9%（昨年度88.5%）でした。2等米以下に格付けされた主な理由は、カメムシ類による着色が19%（昨年度8%）、発芽や胴割などの被害粒が7%（昨年度2%）、昨年多発した腹白・背白は7%（昨年度28%）でした。

カメムシ類による落等が大幅に増えています。丁寧な防除を心がけ全量1等を目指しましょう。

【平成28年水稻の収量と収量構成要素】

品種	場所	年次	もみ数		千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)
			(粒/穂)	(×100粒/m ²)				
コシヒカリ	大槻	本年	72.4	330	22.0	83.1	655	617
		平年	80.4	321	22.4	80.9	663	629
ひとめぼれ	片平	本年	50.6	248	21.9	94.6	617	607
		平年	56.7	295	22.9	87.9	600	586
あきたこまち	湖南	本年	94.3	337	21.4	91.8	686	606
		平年	82.0	357	22.4	86.6	738	706
天のつぶ	三穂田	本年	79.6	323	23.5	90.3	700	684

※精玄米重はふるい目幅1.8mm以上で選別した玄米の重量



4 生育調査ほ調査結果

- (1)「コシヒカリ」はもみ数はほぼ平年並みで登熟歩合が増えましたが、千粒重がやや減少し、ほぼ平年並みの収量となりました。
- (2)「ひとめぼれ」はもみ数が減少しましたが、登熟歩合が増加し屑米が少なくなったため、収量は平年よりやや多くなりました。
- (3)「あきたこまち」は平年に比べもみ数が少なく、千粒重も軽くなったため、収量は減少しました。

5 飼料用米専用品種「ふくひびき」に取り組みましょう

- ・「ふくひびき」は超多収性品種の育成を目標として育種された品種であり、平成7年に福島県の奨励品種に採用されました。
- ・耐倒伏性に優れており、福島県内では過去に1,000kg/10aの収量を達成した事例があります。
- ・「ひとめぼれ」と比較すると出穂期は4日程度早く、成熟期はほぼ同等ですが、立毛乾燥を行うことにより2～3週間程度収穫作業をずらすことができます。

「ふくひびき」取り組みのメリット

- ・「ふくひびき」は、通常の移植栽培で使用する設備や機械がそのまま使用できるため、新たな設備投資は必要ありません。
- ・飼料用米専用品種であるため、他の品種に比べ産地交付金が有利に設定される見込みです。
- ・短程で耐倒伏性に非常に優れるため、直播栽培、立毛乾燥にも活用できます。

【種子の注文は最寄りのJAまでお問い合わせください！】

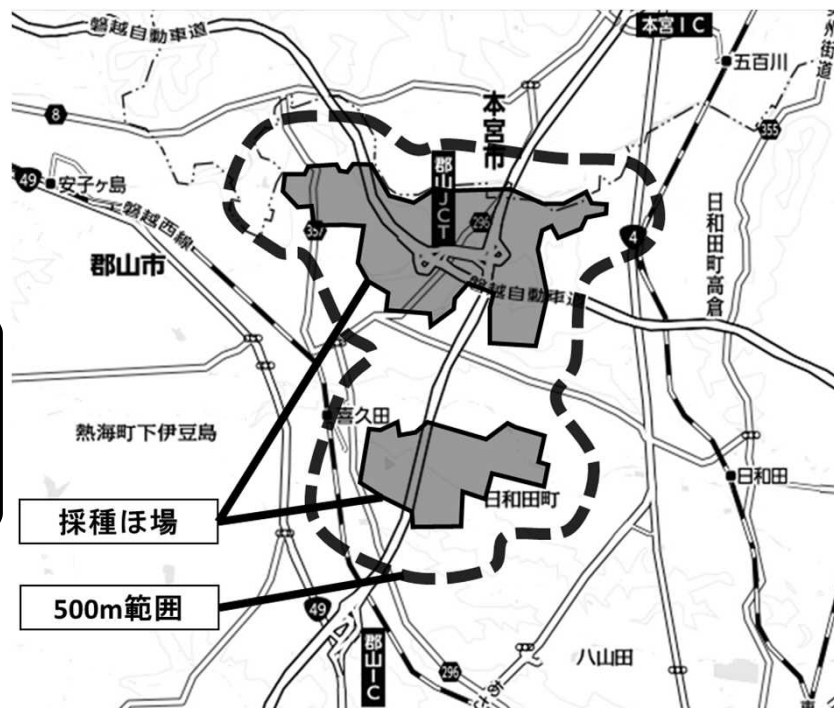
6 イネばか苗病対策を徹底し、ばか苗病の発生拡大を防ぎましょう！

近年、イネばか苗病の発生が増加しています。

イネばか苗病に罹病した株は病気が進展すると生育途中で枯死してしまいます。また、イネばか苗病の胞子は容易に拡散することが知られており、過去の報告では感染株から500m以内のほ場は感染リスクがあるとされています。このため、イネばか苗病を放っておくことで近隣の生産者とのトラブルの原因ともなり得ます。

発生要因として、胞子が侵入した種籾の使用や、不十分な種子消毒が考えられます。種子更新は毎年行い、必ず塩水選を行ってから播種するようにしましょう。なお、未消毒種子を購入した際は必ず種子消毒を実施してください。

また、種子感染することから採種ほ近くでイネばか苗病が発生すると種子の安定供給が出来なくなります。近隣の水田においては特にご注意ください。



ばか苗病とは...

育苗期から本田生育期に、稲体の徒長、葉色が淡くなる、分けつが少なくなる等の症状が現れ、その後枯死する。

症状が重いものは枯死株下部に白色の胞子を形成し、出穂期以降の周辺の籾に感染する。

対応が遅れるほど対処に手間のかかる病気です！

近隣の水田を保護するためにも

早めの対応を心がけましょう。



平成29年度水稻採種ほ予定位置

福島県で初めてQoI剤耐性いもち病菌の発生が確認されました！！

- ・平成28年度にQoI殺菌剤を含む薬剤(商品名:アミスター・オリブライト・イモチエース・嵐)を使用したほ場では、平成29年以降系統の異なる薬剤に切り替えて防除を実施してください。
- ・QoI剤を含む本田散布剤を使用する場合は、QoI剤を含まない育苗箱施用剤を必ず使用して下さい。
- ・QoI剤以外での箱施用剤では耐性菌の発生リスクが極めて低いと考えられます。